



「今大館が県下で一番目なのは人口だけです。工業、農業の出荷額、米の反当たり収量においても県北が県南に劣ってきています。また、中学生の学力、大学進学率にしても劣ってきている状況下にあります。しかも唯一の人口についても減少傾向にあり、こういう大館の現状をとらえて、大館の活性化のために大学誘致が一つの起

爆剤になりはしないか、また大学誘致が教育・文化的土壌の大きな刺激になりはしないかと考え、大学誘致の問題をとり入れたのです」と青年会議所・栗盛さんの説明で始まりました。

「二十一世紀を過ぎ、次の世代に何を残していきけるか……。三のさきがけテストにおいて大館はあまり芳ばしい結果がでていなかった。では、この地域の子供たちに能力がないのか、そうではない、この子供たちの先を見て行く意欲を、私たちが十分に掘りおこしていけないでいるからで、私たちが、この地域を高めるために何が必要なのかを思考する姿勢を強く示すことによって、子供たちの意欲を高めることができるのではないか



▲写真左から、コーディネーターの山脇平太郎氏、パネリストの荒谷浩氏、浜田章氏、日景比内氏。

次代を担う

子供たちは……

佐藤康恵リポーター

第3分科会

「大学誘致とそれを取りまく諸問題」

……。地域興しの基盤は「人づくり」です。人間性豊かな知性、意欲を持った人間を育てていくことにあります。子供たちが高まろうとしているとき、私たちが援護し手助けできるだけのものをもっていいのかということも思うとき、私たちが今どういう形で地域興しにつながっていくのかという模索を進めなければいけません。その一つが大学誘致です」と山脇先生から提言がありました。

大学誘致を考える場合どんな大学がよいのか。そして地域経済、文化面に与える効果や問題点、誘致の条件などが説明されました。教育に速効性はありません。今だ

めでも欲しいのだ、と声を出し続ける息の長さが必要だということでした。学歴重視、受験競争、偏差値偏重、大学入試での足切りなど、人を教育し能力を磨く場であったはずの学校が選抜の場となつてしまい、その結果ドロップアウトの増加、校内暴力、いじめ、登校拒否が生み出されたのではないのでしょうか。

二十一世紀を担う子供たちが、他人の痛みを思いやり、豊かなひろい心を持つ人間に育つてこそ、街の活性化、発展が期待できるのではないのでしょうか。

それにしても、女性の参加者が少なかつたのが惜しまれました。

安心してらせるまちに

秦 震 リポーター



まちづくりも所詮は人です。地場産業は情報収集力に弱い面が見られます。情報の九割は東京に集中しており、「高度情報化社会」といわれても、どこかの国の話やらといった感じがします。誘致企業がもし設備を修理しようとしても、地元では部品調達ができない

くなっています。また、大型公共事業には地元以外の大手企業が参入しています。誘致企業の多くを占める縫製工場では、その頭脳にあたる企画、デザイン、営業がほとんどなく、単なる製造のみ、労働力も低賃金の主婦の雇用が大部分ですし、真の活性化につながるとは考えられません。

観光面では、全国津々浦々で誘客運動が展開されており、単に景色がよい、物がうまい、名産品があるだけではなかなか人が来ません。

あえて時間のかかる所に人が来るとすれば、自然に加えて、再び会いたい人がいるということですね。幸にして多様な人間はまだ存在しています。

私の出席した大学誘致の分科会から考えれば、教育機関が県都に集中しているのは、東北六県では秋田県のみです。国立高専設立時に、今ある大館の姿を洞察して官民一体で誘致していたらと悔まれます。短大を一つ誘致するには最低二十億円かかります。(NHK調査) 既存のものを生かすとすれば、高等看護学院の医療短大化と職業訓練校の技術短大化が考えられ、その他、大学、企業、県等の試験場、研究所等小さなものでもすぐれた頭脳を集めてはどうでしょう。あるパネリストの言葉に「弘前人は大館に愛着を持っている」とありました。弘前大学、さらには岩手医科大学とも接触し医療短大化に結びつけることもよいのではと考えます。学院の卒業生は、市立病院看護婦の六割を占めています。県北医療のリーダーとして市病が活動しているのには、彼女たちの支えもあるのです。この伝統の灯を消さないように、市民行政一体となった行動が必要です。教育には、中長期的視野が大切であり、現在の財政的負担と未来にあるべき大館の姿を勘案したとき、秋田でなく大館に学院を存続させる必要性は火を見るよりも明らかです。大館の地価は東京の十分の一以下と言われています。また失業者を一人でも少なくするために企業誘致と大学誘致は急務と考えます。

豊かな自然とゆとりある居住環境は、企業活動、知的活動に最適です。「安心して健康でくらせる大館」は永遠の課題でありましょう。